伝統行事の流鏑馬や音楽会など
東日本大震災の被災地支援

流鏑馬で息災、泰平を祈願
被災者の招待や募金活動も

疾走する馬から矢をつがえながら的を射る「流鏑馬（やぶさめ）」の神事が4月17日、鎌倉市雪ノ下の鶴岡八幡宮境内の参道馬場で行われた＝写真は松原省吾さん撮影。

4月17日、鎌倉市雪ノ下の鶴岡八幡宮境内の参道馬場（坂本和弘会長）の武田流一門の12人の射手が参加し、参道を埋めた多くの見物客から的を射るたびに大きな拍手や歓声が起こった。

流鏑馬は鎌倉幕府を開いた源頼朝が天下泰平、五穀豊穣、万民の息災を祈念して始められたと伝えられ、8百年以上の歴史を持つ。例年、春は鎌倉市観光協会主催の「鎌倉まつり」の催しの一つとして行われる。今年はパレードなどは中止となり、流鏑馬だけが実施された。東日本大震災の被災地へ復興の思いを鎌倉から届けようというもの。

大日本弓馬会の射手らが募金活動を行った。会場で集まった寄付金は販売純益とともに鎌倉市を通じて被災地へ送られるという。

復興支援のリストバンドの販売が行われ、購入者には観覧席を用意された。鎌倉市内に避難している被災者13人の招待もあった。

鎧直垂姿の射手らが募金

復興を願う歌を刻んだ鎌倉彫
鎌倉彫協組と教授会が制作

鎌倉彫協組と鎌倉彫教授会が被災地の励みになるよう日本の復興を願う歌を刻んだ鎌倉彫を制作した。

「山は裂け　海はあせなむ　世なりとも　君に二心わがあらめやも」

金槐和歌集に収められている一首で、源実朝が上皇に忠誠を詠んだ歌。

どんな災害にあってもこの国は残り続けてほしいという願いを重ねた。

タテ65センチ、ヨコ95センチのイチョウの額板に、鎌倉在住の墨彩画家・西松凌波さんの書をうつし、鎌倉彫会館長の木内哲雄さん＝写真＝ら6人が彫った。摺り漆をかけて仕上げた作品が、鎌倉市小町の鎌倉彫会館に展示されている。

鎌倉市を通して被災地に義援金とともに届けるという。

ひと
念願の新園舎が完成
ピヨピヨ保育園長
橋本（はしもと）志津恵（しづえ）さん

「百人で一歩。みんなで子育てをしている」

親も、職員も学び合いながら、みんなで子育てをしているというピヨピヨ保育園長。

橋本さんと同園との出合いは37年ほど前。

「生まれたばかりの長男を預けにきて手伝ってほしいといわれた」。それから保母の国家資格をとり、勤務した。当時は材木座の2、3カ所に分散して保育が行われていたので、我が子とは別の場所で仕事をした。

途中、体調をくずして仕事を中断したり、両親の介護のため、家に入った時期もあったが、前園長の退職に伴い、1993年に職場復帰した。

保育園は家庭で子どもを保育できない場合に利用できる児童福祉施設。入所の申し込みは市町村で、鎌倉市には認可保育園が19、無認可の保育施設が4カ所ある。申し込んでも入所できない待機児童の数は昨年は鎌倉市で57人。

同園は昨年10月に県から社会福祉法人の認可を受け、4月から認可園としてスタートした。1968年に保育をはじめ、認可を目指してから10数年の年月がかかった。

「移転の話はこれまで数回あった」。1回目は01年の材木座の千代田区の臨海学園跡地、次は03年に浄明寺の市営住宅跡地、3回目は07年に市立深沢小学校の隣地、4回目が08年の材木座の450坪の邸宅だった。しかし、建築条件や住民の反対などがあり、実現しなかった。03年に移転した由比ガ浜のプレハブの園舎は老朽化が進み、移転が急務となっていた。

「新園舎の設計は笠園児の父親がしてくれた」。今年4月、みんなで引越しをし、常盤の新園舎で保育を始めた。新入園児も18人入った。

建築費の約1億6千万円は安心安全子ども基金で県と市から1億4百万円の交付を受け、残りを園が借入金を含み出資している。

「お母さん方や職員のがんばりとご支援いただいた方々のおかげ」。資金づくりの街頭募金やバザーなどを行ってきた。

「毎朝子どもたちのぞうきんがけから始まる」。由比ガ浜の園舎のとき、子どもたちを自然の温かみの中で生活させてあげたいと、「ヒノキの板カンパ」運動が起き、保護者たちが1枚2千円の寄付を募った。3百枚を集め、床板に敷いた。

板はばずして新園舎に運んできた。「隣地との間の板塀に利用したい」。園庭の整備や引越し荷物の整理など、落ち着くまでにはまだしばらくかかりそうだ。（C）

桜の下で音楽会やもちつき
七里ガ浜自治会が被災地支援で

「心をひとつに・元気を　だそう日本」の題で被災地復興支援と地域の防災意識の向上をはかる催しが、4月10日、七里ガ浜東4丁目付近の広場で行われた。

七里ガ浜自治会と商店会の共催で、例年この時期に行われている「さくら祭り」に代えて行われ、サクラがちょうど満開の好天の日曜で、人出が多かった＝写真。

はじめに松尾崇鎌倉市長や市の総合防災課らが震災にあたっての市の対応を報告した。近隣住民らの持ち寄りオークション、バイオリンやリコーダーなどの楽器を持ち寄っての演奏会があり、「上を向いて歩こう」や「ふるさと」などをみんなで合唱した。

花の下で野点席もあり、裏千家の人たちが着物姿で薄茶を振舞った。

近隣の飲食店のキーマカレーや、焼き鳥丼、天丼、ちらし寿司などの弁当や菓子が格安で売られ、行列ができた。餅つきが行われ、つきたての餅も人気だった。子どもたちはゲーム大会に参加したり、元気に義援金の寄付を呼びかけていた。

七里ガ浜自治会（1660世帯）の今井厚会長は、「前から防災マニュアルを見直そうという動きがでていたので、この機会に防災に予算をとりたい」と話していた。

『震災被災者へ義援金を』
寒空の中、とんぼの会が武者姿で

白頭巾に法衣姿の弁慶もいればかぶとによろい姿の鎌倉武士らが勢ぞろい。

「地震被災者への義援金をお願いします」と4月3日の日曜、午前10時から鎌倉駅東口の歩道で行き交う人たちに呼びかけた＝写真。

主催したのは「武者姿で集う・とんぼの会」の人たちで市内の小学校教室に集まり、山本彬江代表の指導で手作りの甲冑教室を開いて、よろいかぶとなどの制作に励んでいる。

自分たちで作ったよろいかぶとの武者姿で、東日本大震災の被災者の義援金の募金活動をやろうとの声が持ち上がり、会員や特別参加のアメリカ人ら18人が、日曜の募金活動に汗を流した。募金者には青い目の外国の人や母子の姿もあり、「ご苦労さま」と温かい声をかけていく人もいた。

寄せられた数万円の浄財は鎌倉市社会福祉協議会を通してこんどの被災者の支援に役立てられる。

手作り品の販売やコンサート
地域と被災地支援の「匠の市」

北鎌倉の円覚寺、東慶寺、浄智寺の各参道で4月2、3の両日、「匠の市」が開かれた。陶器、布雑貨、アクセサリー、菓子などの手作り品や有機野菜など約50店の出店があった＝写真。

震災以来、観光客が減り、住民たちも出控え、人通りの少なかった通りが久しぶりににぎわった。

二日目に東慶寺本堂で「お釈迦さまの誕生日を祝う祈り・響き」という題のコンサートが開かれ、オーストラリアの原住民アボリジニの楽器「デイジュリドゥ」、インドの楽器「タンプーラ」と声明、雅楽の「笙」の演奏が行われた。

同寺の僧侶・井上陽司さんの般若心経の読経との協演もあった。

「デイジュリドゥ」は長さ1・20センチほどの楽器で、ユーカリの木の中をシロアリが食べたものという。唇の振動で音が出る。

「タンプーラ」は下部がカボチャ系の植物で、その上に張った4つの弦を弾いて音を出す。声明ではサンスクリット語の般若心経や平和の祈りが歌われた。

演奏を聴いた人は「大地の底から聞こえてくるような力強い響きだった」と感想を述べた。

あちこちに義援金募金箱が置かれ、出店やコンサートの収益の一部も募金に加えられた。

●生徒への宿題は、外に出たとき観光客らしい外人に目をあわせ"コンニチワ"と話しかけて、相手の反応を見る。それから"Where are you from?"と話しかけるんですよ。
（勇気練習）
カマクラン英会話（教室／鎌倉・婦人子供会館）
朝／夜
10クラスから選定
指導／コガワ他 外人助手
週1回／月3回／月謝制￥5,000
電話問合せ／0467・25・6923（カマクラン事務局）

本を通じ、皆様のお役に立ちたいと願っています。
雑誌・書籍・文具・事務用品・ファンシー
鎌倉駅東口前 ☎0467-22-0266
大船駅東口前 ☎0467-46-3841
島森書店

鉢の木
お弁当のお届けや出張料理もございます。
どうぞ、お気軽にご用命下さい。
本店22-8719　北鎌倉店・新館23-3723

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081（代）
http://www.tenkundo.co.jp/

迅速と、サービスと
東京陸運局認定・ニッサンサービス・J・A・F指定
㈲川島自動車整備工場
大町4－1－35（名越踏切手前）電話 0467(25)3223